

## Egger Franz エッゲル フランツ

膨大な知識量と創作意欲をそのまま具現化した、オリジナリティ溢れる瓶内2次醗酵シードル



ボルツァーノからアディジェ川沿いに南へ30km、エーニャ(ノイマルクト)の町。若くから植物学者として大学に勤務し、植物を主体に自然環境、菌、酵母などを、専門的に研究してきたという異色の経歴を持つフランツ エッゲル。1994年に大学を退職後、父が続けてきたリンゴ栽培農家を引き継いだことを契機に、シードルの追及へ没頭していく。

アディジェ川のほとりにある彼のリンゴ畑、土地は水はけのよい砂質、粘土質(トゥーフオ土壤)。父の代までは一般的なリンゴ栽培を行ってきた。フランツは、これまで自身が学んできた知識と経験をもとに、薬品類の代わりに多種の薬草からとった煎じ液を利用することで、果樹では非常に難しいとされる無農薬、無肥料栽培を実践している。

リンゴの品種も病気やカビに強い原種を選抜(1600年代に日本より伝わったとされるヒメリンゴ系の品種からの交配、ゴルドラッシュ、トッパス)、それぞれ糖度が上がりにくい品種ではあるものの、果皮が厚く生食よりもシードルに適していること、収穫量を抑えて果実の密度を上げることで、十分な糖度とバランスを持った収穫へたどり着く。当初は試行錯誤ではあったものの、彼の推測は見事に的中し、現在は年によってごくごく微量な天然由来の硫黄物を使用するのみ、ボルドー液はもちろん銅も全く使用する必要がないというバランスの取れた畑に驚愕する。

しかしながら、元来このあたりではリンゴ栽培は多くあったものの、そのほとんどは生食用、もしくはジュースとしての需要がほとんど。イタリアでのシードル生産の大半は「輸出用」という現実がある。フランスやスペインに比べ、リンゴを醗酵させてシードルを造ること自体が「特殊」であることに間違いはない。それではなぜ、シードルの醸造を始めたのか？

「栽培や収穫にのめり込むほど、リンゴを収穫して販売するだけでは物足りないと感じてしまって、、、あくまでも果実、農産物である以上、形に残すことはできないし、自分がいくらこだわったリンゴを栽培したとしても、メルカートでその違いに気づいてくれる人は皆無だった。それに比べて、ブドウを栽培してワインを造るという行為は、果実以上の表現ができると感じたんだ。リンゴを用いて表現できるもの、形の残るものを造りたい、それがシードル造りだったのさ。」そう話すフランツ。自ら収穫したリンゴを用いたシードルの醸造、、、当初は試行錯誤であったものの、追及心の高い彼。フィルターの使用をやめ、オリ引きの回数を減らし、オリによって原酒が守られる状態(シュール・リー)を維持する事で、完全にSO2の添加を行わない瓶内2次醗酵のシードルを造りだすまでに至る。

オリとともに保管することで、原酒自体が守られる=酸化に対して抵抗を持つ、という考えのもと造られたシードル。シンプルにリンゴだけで造ったものはもちろん、リンゴと一緒に収穫されるカリン(mela Cotagna)を加えたものや、リンゴ果汁にサンブーカ(Sambuca=ニフトコ)の花を加えて一緒に醗酵させたものなど、、、彼の創作意欲には驚かされてしまう。



収穫は 10 月中旬～下旬。生食用とは違い、樹上にて落ちてしまう直前まで、完熟したリンゴを収穫。破碎して圧搾した果汁は小型のタンクで 20～30 日間、緩やかに醗酵を促す。醗酵が終わった段階で、別に保管しておいたリンゴジュースと微量の酵母を加えボトル詰め、瓶内にてもう一度醗酵が始まるのを待つ。酵母や醗酵中の温度については、まだ試行錯誤の段階だと話すフランツ。リンゴの果汁のみで醗酵しきった爽快さ、そして全く嫌みのない香りと、心地よくも繊細な味わい。

歴史や伝統にはないものの、フランツのこだわりの栽培・醸造観念によって生まれた、個性豊かな素晴らしい味わいのシードル。まだ実験段階という生産ではあるものの、ぜひとも今後の醸造、そして彼の到達点が本当に楽しみな造り手。

## Floribunda(Egger Franz) フロリバンダ(エッゲルフランツ)

アルト アディジェーサロルノ

ワイン名	ヴィンテージ	種類	容量	メモ
<b>Sidro</b> サイドロ	22	シードル	750ml	リンゴ(トッパス、ゴールドラッシュ)、樹齢 20 年。収穫後、破碎・圧搾。小型のタンクにて緩やかに醗酵を行う。遅れて収穫したリンゴを圧搾、果汁を加えてボトル詰め、瓶内 2 次醗酵。SO2 を一切添加しないリンゴのみで造り上げたシードル。2022 年はトッパスが中心となります。
<b>Sidro con Cotogna</b> サイドロ コン コトーニャ	22	シードル	750ml	リンゴ(トッパス 40%、ゴールドラッシュ 40%)、西洋カリン 20%、樹齢 20 年。収穫後、破碎・圧搾。リンゴと同じ畑に育つカリンを加えて醗酵。保存しておいたリンゴ果汁を加えてボトル詰め、瓶内 2 次醗酵。スポッカウーラ(オリ抜き)せず、そのままリリース。SO2 完全無添加。リンゴにはないタンニンを、カリンから補い、長期熟成に耐えるポテンシャルを秘めたシードル。
<b>Sidro con Fiori di Sambuco</b> サイドロ コン フィオリ ディ サンプーコ	22	シードル	750ml	リンゴ(トッパス)、サンブーカの花 1%、樹齢 20 年。収穫後、破碎・圧搾。醗酵が始まるタイミングで、サンブーカの花を加えて醗酵。遅れて収穫したリンゴを圧搾、果汁を加えてボトル詰め、瓶内 2 次醗酵。スポッカウーラ(オリ抜き)せずにリリース。SO2 完全無添加。サンブーカの花の甘い香りと清涼感、個性溢れるシードル。
<b>Sidro con Zenzero</b> サイドロ コン ゼンゼロ	22	シードル	750ml	リンゴ(ゴールドラッシュ 99%)、ショウガ 1%。収穫したリンゴに、地元南チロルで栽培されたショウガと一緒に破碎。緩やかに醗酵を行い、リンゴ果汁を加えて瓶内 2 次醗酵。スポッカウーラ(オリ抜き)せず、そのままリリース。SO2 完全無添加。リンゴの風味にショウガの爽やかさ、素晴らしい相性のシードル。
<b>Sidro Rosato</b> サイドロ ロザート	22	シードル ロゼ	750ml	リンゴ(トッパス 70%、ナトゥーラ 20%、レッドラヴ 10%)、樹齢 20 年。収穫後、破碎・圧搾。小型のタンクにて緩やかに醗酵を行う。遅れて収穫したリンゴを圧搾、果汁を加えてボトル詰め、瓶内 2 次醗酵。スポッカウーラ(オリ抜き)せずにリリース。果肉の赤いリンゴ(レッドラヴ)が加わることでロゼのシードルに。突き抜ける酸の心地良さ、暑い季節にたまらないシードル。
<b>Sidro con Menta</b> サイドロ コン メンタ	22	シードル	750ml	リンゴ(ゴールドラッシュ 80%、トッパス 20%)、ミントの葉 1%、樹齢 20 年。収穫後、破碎・圧搾。醗酵が始まるタイミングで、同じく畑に自生しているミントの葉を加え醗酵。遅れて収穫したリンゴを圧搾、果汁を加えてボトル詰め、瓶内 2 次醗酵。スポッカウーラ(オリ抜き)せずにリリース。SO2 完全無添加。リンゴの甘い香りとミントの清涼感が高相性の組み合わせ。
<b>Sidro con Peperoncino</b> サイドロ コン ペペロンチーノ	22	シードル	750ml	リンゴ(ゴールドラッシュ 80%、トッパス 20%)、樹齢 20 年。収穫後、破碎・圧搾。醗酵が始まったモストに、フレッシュの唐辛子 2 種(スイートチリ、ハバネロ)を加え、醗酵が終わるのを待つ。遅れて収穫したリンゴ果汁を加えてボトル詰め。瓶内 2 次醗酵。スポッカウーラ(オリ抜き)せずにリリース。唐辛子の辛みが、リンゴの甘みを引き立ててくれる、個性的なシードル、。

---

## Sidro al Corniolo

スイドロ アル コルニョーロ

22

シードル  
赤

750ml

リンゴ(ゴールドラッシュ、トッパス)、樹齢 20 年。収穫後、破碎・压榨。醱酵が始まるタイミングで、カステルユヴァルより収穫したコルニョーロ(セイヨウサンシュユ)を加えて一緒に醱酵。遅れて収穫したリンゴを压榨、果汁を加えてボトル詰め、瓶内 2 次醱酵。スポッカトゥーラ(オリ抜き)せずにリリース。コルニョーロの強い色素とタンニンを持ったまるで赤ワインのようなシードル。

---

## Sidro alla Mela

### Barricato

スイドロ アッラ メーラ バッリカート

20

シードル

750ml

リンゴ(ゴールドラッシュ、トッパス)、樹齢 20 年。収穫後、破碎・压榨。小樽(バリック)にて緩やかに醱酵を行い 3 か月の熟成。遅れて収穫したリンゴを压榨、果汁を加えてボトル詰め、瓶内 2 次醱酵。スポッカトゥーラ(オリ抜き)せずにリリース。木樽で醱酵させることでリンゴの高い酸を和らげ、柔らかさをもつシードル。

---